

理想的な授業とは

宮城県仙台第三高等学校 普通科ー8班

1. 背景と目的

生徒の教育に対する関わり方は「受け手」としての役割が主であったが、その中で「受け手」として今受けてる授業が本当に有効的なものであるのか疑問に思った。そこで、「受け手」「提供する側」両者の視点に立ちながら現実的にどのような授業が理想的であるかを知ろうと考えたから。

「高等学校においては、生徒一人一人に社会で求められる資質・能力を育み、生涯にわたって探究を深る未来の創り手として送り出していくこと」が重要とされている →「アクティブ・ラーニングの視点に立った授業改革」が求められる →よりよい教育・授業を提供する技術に興味を持った ※「」内 高等学校学習指導要領（平成30年告知）解説総則編より引用

2. 調査

（1）三高一年生（現三年生）へのアンケート

＜目的＞ ・私達の仮定（生徒が積極的に参加できることで、理解が深まり、良い授業と言える）の検証

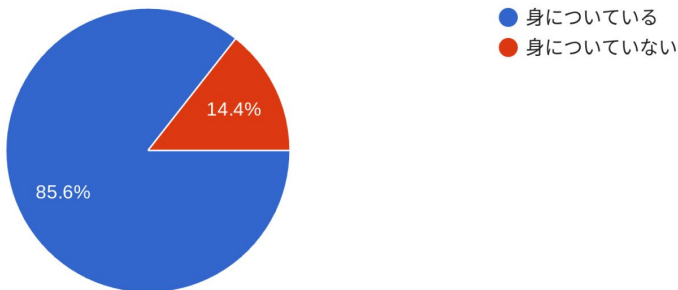
・探究テーマ「理想的な授業」への理解を深めるために、三高生の授業への考えを知る

・私達が求める授業像の追求のため、三高生の意見を集め、「生徒が理想とする授業」とは何かを調査する

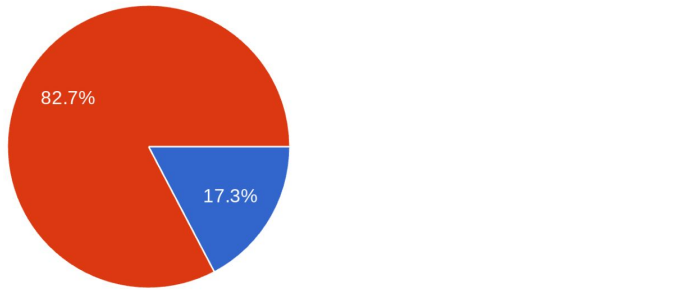
3. 結果考察

④積極的に参加した結果、その授業の内容について身についたと感じましたか

132 件の回答



対の質問



参加したい理由

- ・授業が面白い、楽しい
- ・先生の板書やスライドがわかりやすい
- ・教え方がわかりやすい

参加したくない理由

- ・授業が面白くない、つまらない
- ・進度が早すぎる
- ・わかりにくい

⇒教師がどうであるかが重要になるのではないか

3. 調査 2

（2）先生方へのアンケート

＜目的＞ ・生徒へのアンケートで得た、生徒が理想とする授業と、先生が理想とする授業との比較を行うため。

・自身の授業についてどう感じているかを知り、生徒の感じ方と比較する

4. 結果考察

好評な授業

→生徒に2割～4割程度しか伝わっていない

対話的に行う内容が多かった

不評な授業

→自分の生徒に5割～7、8割程度伝わっている

先生が話す時間である解説の割合が多かった

その中で対話的に行うものが多い人がいた

→ペアワークで知識の確認がない

- ・解説ばかりの授業は好まれにくく、対話的に行う方が良い
- ・対話的な活動も使い方が重要になってくる
- ・先生がどのような意図で授業をしているのか、生徒があまり掴めていない

高校の授業において必要な力

- ・基礎的な知識・技能
- ・基礎的な知識・技能を活用して課題を解決する力
- ・主体的に学習に取り組む 意欲・態度

大学のために必要な力

- ・説明する力、議論する力
- ・批判的、合理的に考える力
- ・「創造力、構想力」

生徒はどのような授業を望んでいるのか

- ・生徒が授業の中で会話などをできる授業
- ・自習中心の授業
- ・生徒が興味をもて、楽しいと感じる授業

まとめ・結論

まず授業で、生徒が参加意欲を持てること大切である。そして、生徒の受けたい授業に差がある。よって自分の受けたい授業形態に合わせたクラス分けも有効ではないかと考える。その中でも、高等学校教育の中で養うべき力があるため、それらを蔑ろにはしていない。また先生は、生徒がどのような力を身につけるべきか生徒と共有し、定期的に授業について生徒の意見を聞き、授業に活かすことが大切ではないかと感じました。

参考文献

高等学校学習指導要領（平成30年告知）解説総則編

[高等学校学習支援要領解説：文部科学省](#) [高等学校教育を通じて身に付けさせるべきもの](#)